

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銀賞

税金と環境―未来のための選択―

加須市立北川辺中学校

三年 田川 太一

最近、ニュースで税金に関する議論をよく見ます。特に消費税の増税や環境税の導入、そして社会保障の増加に伴う税制改革など、私たちの生活に直接的な影響を与える問題が注目されています。税金は私たちの生活に深く関わっており、税制がどう変わるかによって、私たちが暮らす社会の姿が大きく変わることになります。

税金に対してあまり意識を持っていない若い世代も多いかもしれませんが、税制改革は私たちの未来にとって非常に重要な問題です。特に私たちが社会に出ていく頃には、税金がどのように使われ、どのように私たちの生活に影響を与えるかをしっかり考える必要があります。最近のニュースでも、税金に関する話題が多く取り上げられており、私たち中学生もその議論に関心を持ち、考えを深めるべき時期に来ていると思います。

例えば、二〇二三年に議論を呼んだ「脱炭素」の導入案について考えてみましょう。この税制は、温室効果ガスの排出削減を目的として、化石燃料を使ったエネルギーや製品に課税することです。地球温暖化や環境破壊などが進むなかで、持続可能な社会を築くには、環境への負担を減らすための政策が必要です。その一つとして、脱炭素税は非

常に重要な役割を果たすと考えています。しかし、生活費が増加することが懸念されています。例えばガソリンなどの値上げが予想され、それが家計に与える影響は少なくありません。

ですが、税金の増加は一時的に生活を苦しめるかもしれませんが、将来のための必要な費用だと考えることができるのです。

一方でどのように税金が使われているのかにも着目しなければなりません。最近のニュースでは、税金の使い方が不透明だったり不正な使い方が報じられます。もし、税金が無駄に使われたり、特定の団体や企業だけが利益を得たりするようなことがあれば、それは社会全体の信用を失うことになります。

私たち中学生としては、税金がどのように社会に影響を与えるかを学び、将来社会に出たときに自分の意見をもつことが大切です。税金をただの負担としてでなく、社会のインフラや福祉、教育などといった重要な部分を支えるためのものとして考えることが重要だと思います。また、税金が正しく使われているかを監視し、納税者としての責任を果たしていくことが、よりよい社会を作るための第一歩になるはずです。私たちの未来を考え、税金について理解し、責任を持って向き合うことが、より良い社会を築くために必要不可欠だと感じています。